

Feng-Shui Gallery

special edition vol.90

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『色彩による空間イメージの変化』

～暖色・寒色によってどう変化するのか～

<写真1>ダイニングスペースを囲むように作られた、オレンジブラウン色の曲線壁は、家族団欒の明るい雰囲気を作り出してくれます。この壁を寒色のスカイブルーに変えてみると、すっきりとした印象の空間に変化します。その反面、寒色をメインとした空間は、暖色に比べ影になる部分が強調されてしまい、少し暗い印象を受けるかもしれません。家具の張地やクッションなどの小物に明るい色を用いることで、整った空間にすることができるでしょう。<写真2>暖色で構成された寝室は、温もりを感じ、リラックスした状態で深い眠りにつける空間といえます。その一方で、寒色をアクセントに取り入れた空間も、脳を沈静化させることができる為「睡眠」という面では適した色彩といえます。アクセントの青色に合わせて、家具やカーテンなどの色彩もトーンを落とすことで、落ち着きのある空間にデザインすることができます。<写真3>パステルイエローを基調とした、とても明るいイメージのダイニングキッチン。この空間の壁を寒色にする場合は、家具や床のフローリング、システムキッチンの扉などをナチュラルカラーにして色味を足すことで、青がもつ寒色のイメージが和らぎます。ただし、寒色がもつ脳の沈静化や、気を鎮めるといった働きはダイニングに合うとはいえないので、使用する範囲はアクセントや家具などの一部にすることが望ましいです。



人間の五感による知覚の割合は、視覚が7～8割とも言われており
色彩情報が脳に与える影響は多大です。
空間を構成する色彩が「暖色」「寒色」それぞれの場合で
空間イメージがどのように変化するかを知ることは
心地よい空間をデザインする上で
とても重要な要素と言えます。